

コレステロールは長生きの秘訣？

「日本は負けたのだから、我慢しなさい」

日系2世で93歳、岩国なまりのおばあちゃん、スーから今回も多くのことを学ぶことになった。米国生まれで、生後すぐ両親と日本に帰り、18歳まで広島島の岩国で育ったが、大戦前にあの巨人軍の米国遠征の船で、たった一人で姉を頼り米国に帰ったので、のちに帰米2世と呼ばれた。しかし話す言葉はLとRは使い分けが難しいと言いつ、パープル（紫色）をプロポーと発音するくらいひどいが、真冬でも日中は20℃を超えることがあるLA近郊の自宅では日本のTV番組も見ていたりする。

今年1月下旬のある時、2人でNHKニュースを見ていたところ、突然、典型的なアクセントがある日本語で「ミヤイさん、TPPって何だね？」と聞かれた。高齢のおばあちゃんに細かいことを説明しても大変なので、簡単に「自由貿易のことだよ」と答えた。するとスーは再びこのような質問をした。

「え？ まだ米国と日本は自由貿易をやっていないかったの？」
もう一度、簡単に今回のTPPは日本農業に一番影響があるといわれ

ている点、肉、酪農製品の関税制度、大豆は自由化されているが、麦は実質国家管理であることなどを説明したが、やはりイマイチ理解できない様子だった。

ここでスーが経験した日本食について説明しよう。スーは戦後3回日本に行ったことがあり、日本食について、よくこんな話を聞かされた。

「そうよね、日本の食事は貧しいからね、時々日本に行つて食べる日本食よりも米国の日本食の方がおいしいでしょう？」

確かに限られた食材で英知を絞つて出される日本国内の日本食よりも、米国中の食材が集まり、中には日本でも見たことのない日本食材と、ドカーンと出される肉の方が魅力的だ。

スーは、我慢してコレステロールが少なくて味気のない日本食よりも、毎朝食に出される分厚いベーコンにスクランブル・エッグを食べれば、私のように長生きできますよ、と言いたかったのかもしれない。今

イモ食って日本幸福（降伏）？

Vol.39



宮井能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。年商約1億円。

Illustration by Kazushige Akita

ではスーが住むこの地帯の日系人は少なくなり、韓国系が幅を利かせる様になったが、時折出会う2世、3世の高齢の方たちは日本の同年代よりも元気が良さそうだ。

そしてこんな過激なことも言う。

「我慢我慢なんてことは昔から日本人は言っているけど、いつになったら豊かになれるの？」「頭でっかちばかり集まったって、米

オレにも 言わせる!

北海道長沼発 ヒール宮井の憎まれ口通信

には勝てないのよ」

いつか日本の民主党に仕方なく投票した自民党支持の共産主義者に聞かせてあげたい、ありがたいお言葉である。もしかしたら彼女は本当の**大和撫子**なのかもしれない。

WHOの適正塩分基準を軽く超えるたくわんをポリポリ食べ、国産大豆消費に全く影響を及ぼさない味噌汁は健康に良いなんて勝手に信じ、君が代は歌えないが、AKB48のカラオケをこよなく愛し、簡単に戦勝国の料理を馬鹿にする勘違い日本人は少なくはないが、果たして実態はどうなのだろうか？

私が50歳くらいまではステーキは1インチ(2・54cm)の厚さのものでも、脂肪分が少ないので毎日食べても飽きることはなかったが、この数年は寄る年波には勝てず、1ポンド(454g)はとても無理、せめて12オンス(339g)で勘弁してくれと思うようになった。しかしながら、日本人でも一度このような肉中心の食生活を初めてしまうと、日本食は貧相に見えてくる。

TPPが締結され、喧々囂々と無駄な時間と予算を使ったことを忘れてしまう5〜10年後にリブアイ・ステーキが**今の半値**になり、コメの消費は半分の年間25kgになることを拒む将来の若者はいいるのか？

ただでさえ自分の子供たちの未来を語ることができなくて、昨日と同じことをやっていけば良い、なんて考える農業生産者が多く、自衛隊だつたら強制退職する50歳を過ぎてもなお「日本のコメは数千年の歴史がある！」なんて夢物語を語っても、ご本人の葬式には農水から花輪が送られてくる可能性は少ないだろう。実は米国の食でも変化が起きている。多くの米国人の主食はパンではなくポテトである。生食用のポテトの消費は下がり気味だが、加工用は伸びている。そうなると日本のコメをパン用に加工して販売するのは良しとするのか。でもこのコメの価格では……。

占領されている 事実を拭い去れない

今回の米国ツアーの一つである、ケンタッキー州ルイビルファームシヨウの最後のディナーを飾ったのは、ローン・スターと同じくらい有名なオージー・ブランドで米国資本のアウトバック・ステーキハウスに日本人8名、米国人1名が同じテーブルに座ることになった。

メニューを見てもこれは何？ってことになるので、私がオーダーした。肉は分厚いリブアイのみで、焼き加減を各自が決めることになった。サ

イドメニューはマッシュド、ベイクド、フレンチフライのうちどれかの調理方法のポテトを選ぶことになるが、私を含めた日本人全員、ポテトはアイ・ドン・ケアー(いりません)となった。正直言つて肉にポテトは日本人にはヘビーなのです。それでコールスローとブロッコリー、マッシュルームを食べることにした。

しかし72歳の米国人は違った。ベイクドポテトにサワークリームをたっぷり乗せて食する姿は戦勝国ここにありと誇らしげであった。ちなみにステーキのサイドメニューにニンジンはない。日本ではソテーされたニンジンが出るが、あれはヨーロッパのやり方らしい。イモも不思議な食べ物ようだ。農産物の分類では野菜、食品ではイモ類なので野菜ではない？となる。どちらにしても日本の主食コメが**イモに代わった時**が米国の占領政策が終了する時と自覚しよう。

もう一度、冒頭の「日本は負けたのだから、我慢しなさい」を考えていただきたい。米国は日本を占領していると言言しても日本人以外は誰もが信じる事実だ。そのことが良いか悪いかは、将来の歴史の教科書を読んだ子供たちが決めれば良いことである。一寸の虫にも五分の魂の教育が中途半端なのだろうか、そ

んな害虫は組換えのBtの技術でせん滅されるべきである。

生産者の仕事は農産物を作ることであり、議論することではない。多くのメディアは米国、オーストラリアからの農産物が自由にやってきて、大変だと考えているようだが、生産者が起こす行動はその時の政策にあった農業をできるかどうかである。現実的には農水、米国のご意向を無視して騒いだところで得るものはあるのか。1993年のあの時みにたいにハチマキして芝刈り機の様なたらくターで街頭行進した結果、ガット・ウルグアイラウンド締結対策で6兆円以上のお金が農政に流れた経験が、再び同じ行動をさせるのだろうか。直接、金髪ブルーアイに文句を言えない、そんな勇氣もない、まして交渉術なんて学んでいないのに、扇動されるだけでは見苦しい。だからそんな後姿を見ている子供たちは生産よりも非生産的な産業に目を向けることになる。

日本の生産者よ、騙されてはいけない、真なる敵は米国やオーストラリアではない、あなた自身かもしれない。そして悩める子羊たちよ、心配することは無い、隣の**たくわん親父**を信じるよりも金髪・ブルーアイと楽しく生きていこうではないか。